



7 月 号  
令和元年 7 月 19 日

# 桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

桜花爛漫・飛翔若鷹

ひとり歩きのできる子  
～つながる力を育む～

検索 庄川まちづくり協議会

## ‘ふるさと庄川’をつなぐ

校長 水口 悟

桐始めて花を結ぶ(大暑 初侯 きりはじめて はなをむすぶ)

桐の花が梢高く、花咲かせるころ。和の暮らしの中で、桐は家具として役立ってきました。(新暦では、およそ七月二十二日～七月二十七日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

### ◇ ひとり歩きできる子の ‘シーズンⅡ 夏 挑戦Ⅰ (7～9月)’

#### シーズンⅠ 春 出合い・めあて(4～6月)

- 心をつなぐ 89%
- めあてをつなぐ 85%
- 考えをつなぐ 79%
- ふるさとをつなぐ 98%

6月末の先生方による‘4つのつなぐ’の評価です。新しい出合いを大切にしながら新しいめあてに向かって取り組んだ3ヶ月の姿が、高く評価されています。それでも、全校集会で結果を伝えた子どもたちの表情は、首をかしげ納得いかないようでした。そこで、シーズンⅡに向け、さらにつながる力と姿を高めましょう！と話したことは次の内容です。自ら挑戦する3ヶ月の始まりです。

- 好きなことや得意な事に挑戦できる・夢中になれる  
→ 苦手なことにも挑戦できる → よくわからないことは質問できる
- 1回挑戦してできたことでも  
→ 2回目・3回目と繰り返し繰り返し挑戦できる → さらに難しいことに挑戦できる
- 誰か(先生・友達・家族)が見ているところでもできる → 誰も見ていなくてもできる
- 校内でできる → 校外(家庭・地域・社会見学等)でもできる

### ◇ ひとり歩きできる子の ふるさとをつなぐ

1日には、昭和34年度に庄川村立庄川小学校を卒業された山下晴彦さんに母校に来ていただきことができました。約60年前のふるさと庄川の米作りについて油絵を通して話す山下さんのお話には、子どもたち耳を傾けていました。地域の方々も参加され「懐かしい」と涙ぐむ方もみえました。多数の方々に参加していただき、ありがとうございました。ふるさとの記憶というのは、人の成長にとって計り知れないものがあることを改めて実感しました。ふるさとを語るができる・・・、幼少期に自然や文化に触れたこと、友達と一緒にしたこと、家族と一緒にしたこと・・・などは、人としての生き方の基盤につながっています。昨今の痛々しいニュースを聞くと、義務教育までの感性や感受性が豊かに育つ時期までの‘ふるさと体験’は、これからの時代において、ますます重要になる！と考えさせられます。忘れてはなりません、ふるさと庄川のすばらしさを！



昨年12月末に受けた山下さんからの「油絵20点寄贈」の連絡から半年。山下さんが、自作の油絵を背に母校の児童の前に立ち、当時のふるさと庄川を語る姿に感動しました。約60年を超えた出会いです。何かのご縁です。庄川町まちづくり協議会のテーマである「豊かな自然と文化に誇りをもち、いつまでも住み続けたいと思うまちづくり」を表す貴重な一コマとなりました。

‘ふるさと庄川をつなぐ’活動は、学校の活動の中にも、地域の活動中にも、日常的にたくさんあります。早速、高学年の子どもたちが、山下さんへお手紙を送りました。山下さんから、「悪魔払い」の油絵を新たに寄贈していただきました。学校の内外も、四季が折りなす‘ふるさと庄川’のすばらしさに囲まれています。